

17 ( '07 京大 )

【難易度】… 難

$A$  を 2 次の正方行列とする . 列ベクトル  $\vec{x}_0$  に対し , 列ベクトル  $\vec{x}_1, \vec{x}_2, \dots$  を  $\vec{x}_{n+1} = A\vec{x}_n$ , ( $n = 0, 1, 2, \dots$ ) によって定める . ある零ベクトルではない  $\vec{x}_0$  について , 3 以上の自然数  $m$  で初めて  $\vec{x}_m$  が  $\vec{x}_0$  と一致するとき , 行列  $A^m$  は単位行列であることを示せ .

【テーマ】: 1 次変換

方針

いろいろな方針があると思いますが , ここではケーリー・ハミルトンの定理を使って解いていきます .

解答

【証明】

$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$  とし ,  $a + d = s$ ,  $ad - bc = t$  とおくと , ケーリー・ハミルトンの定理より ,

$$A^2 - sA + tE = O \iff A^2 = sA - tE$$

が成り立つ . よって ,

$$A^3 = sA^2 - tA = s(sA - tE) - tA = (s^2 - t)A - stE$$

となるので , 以後帰納的に  $m \geq 3$  のとき ,  $A^m = pA - qE \dots$  ① と表すことができる . ただし ,  $p, q$  は実数 . ① より ,

$$A^m \vec{x}_0 = pA\vec{x}_0 - qE\vec{x}_0$$

が成り立ち ,  $\vec{x}_m = A\vec{x}_{m-1} = \dots = A^m \vec{x}_0$  より ,

$$\vec{x}_m = pA\vec{x}_0 - qE\vec{x}_0$$

である . ここで ,  $\vec{x}_m = \vec{x}_0$  より ,

$$\vec{x}_0 = pA\vec{x}_0 - qE\vec{x}_0 \iff pA\vec{x}_0 = (1 + q)\vec{x}_0 \dots$$
 ②

となる .  $p \neq 0$  のとき ,

$$A\vec{x}_0 = \frac{1+q}{p}\vec{x}_0$$

となるので ,  $r = \frac{1+q}{p}$  とおくと ,

$$A\vec{x}_0 = r\vec{x}_0 \text{ より , } A^2\vec{x}_0 = r^2\vec{x}_0 \dots$$
 ③

であり , 以後帰納的に変形することで  $A^m \vec{x}_0 = r^m \vec{x}_0$  を得る . したがって ,

$$\vec{x}_m = r^m \vec{x}_0$$

となり ,  $\vec{x}_m = \vec{x}_0$  より ,

$$\vec{x}_0 = r^m \vec{x}_0$$

である .  $\vec{x}_0 \neq \vec{0}$  であるから ,  $r^m = 1$  でありこのとき ,  $r = \pm 1$  となるので  $r^2 = 1$  である . このとき , ③ より ,  $A^2 \vec{x}_0 = \vec{x}_0$  となるので ,  $m \geq 3$  で初めて  $\vec{x}_m$  と  $\vec{x}_0$  が一致するという条件に反し不適 . よって ,  $p = 0$  となる . このとき , ② より ,

$$(q+1)\vec{x}_0 = \vec{0}$$

となり,  $\vec{x}_0 \neq \vec{0}$  であることから,  $q = -1$  を得る. よって, ① より,

$$A^m = E$$

となるので, 題意は示された.

(証明終)



**解説**

証明の概要は, 一般に  $A^m$  が  $A$  と  $E$  だけで表されることを述べておき, そこから  $A$  の係数が 0 になり,  $E$  の係数が 1 となることを導くというものです. 与えられた条件  $\vec{x}_{n+1} = A\vec{x}_n$  と  $\vec{x}_m = \vec{x}_0$  をどのように使うかがポイントとなります.